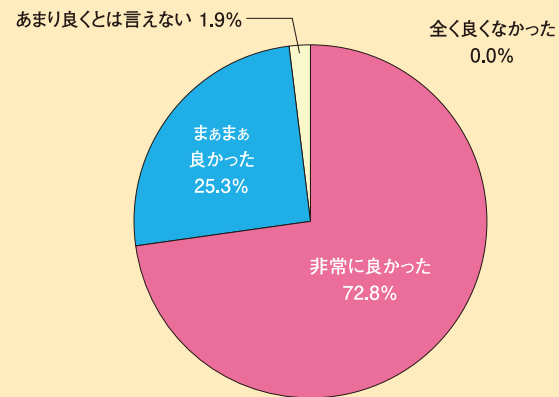


■インターンシップの満足度（2022年度履修学生）

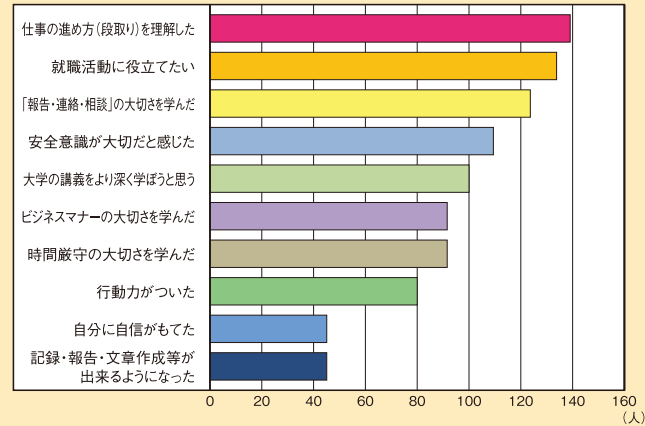


■インターンシップ受入企業の声

【研修学生に対して】

- ・自ら進んで実習に取り組む姿勢は、今すぐ会社に出たとしても即戦力として対応できると思います。コミュニケーション能力も高い為、今の姿勢を忘れずに成長すれば、将来が楽しみだと感じさせられました。
- ・作業に対して意欲的で積極性があり、インターンシップ中に技術の向上が見られた。非常に頑張って良い印象だった。
- ・研修中、非常に態度も良く本当に学生かと疑うくらい礼儀正しく感心させられました。課員とのコミュニケーションも積極的に取り、非常に社交的で全体が明るい雰囲気になりました。遠方からの通勤で体力的に辛い日もあったと思いますが、そのような素振りを全く感じさせることなく、毎日の研修を意欲的に取り組んでいて非常に感心しました。
- ・実習の態度は礼儀正しく、仕事への取り組み姿勢も色々な事を積極的に吸収していこうという意欲があり指導のし甲斐がありました。新入社員をはじめ作業所の職員とは積極的にコミュニケーションをとっており打ち解けていた所も社会に出た際に彼の強みになる部分だと感じました。
- ・周りの作業をよくみており、積極的に仕事を探したり、自主的にメモを取るなど研修意欲があった。要領をつかむのが早く、どのように動けば効率よく作業ができるか考えながら行動していた。
- ・高校生時代から土木業界に進むと決めているようですので、ぜひ入職していただき立派な技術者に成長していただきたいと思います。

■インターンシップで得られたもの（2022年度履修学生）



- ・慣れない作業にも関わらず、積極的に業務へ取り組んでくれました。研修が始まって3週間ほど経過したころには立派に職人一人分の働きをこなしていました。40日間本当に頑張っていたと思います。

【インターンシップ制度に対して】

- ・受け入れ側としては、中小企業の良さも見えていただけるので良い機会になります。出来れば将来、当社を選んでいただければと思います。
- ・私も卒業生であり、実際にこのインターンシップを経験した事で、多くの学びがありました。実際に仕事するのと、大学の実習で学ぶ内容とは規模もスピードも違うのでとても良い経験になったことを今でも思い出します。40日間と期間が長いので継続的に仕事の流れを理解する事が出来るので他の学生よりも、より即戦力として社会人になってからも活躍出来ると思います。
- ・将来を担う、質のよい人材を育成するにあたり、また入社から短い期間での離職率を下げるためにも、インターンシップは、大学、企業、及び学生本人にとっても、必要不可欠なシステムだと思いますので、弊社としては今後も学生さんを受入れていきたいと考えております。
- ・長期間インターンシップは学生からすれば、就業体験であり社会に出る前に社会を知るいい機会であると思います。企業側にも若者の傾向をつかむことができることや、人材育成の方法を探ることができるメリットがあると思っています。

インターンシップ受入の条件等

■研修内容、指導担当者の選定、研修時間など

- ・職務内容：原則として、受入先の職務内容の中から学生の研修にふさわしいテーマ等を選定してください。具体的な研修内容や学生に直接かわる連絡事項等は、選定していただいた指導者の方と本学教員または担当職員の間で相談させていただきます。
- ・指導者等の選定：受け入れ可能な職場において、直接に指導を担当される指導者を選定していただけるようをお願いいたします。
- ・研修時間等：研修日、研修時間等は受入先の規定に従うものといたします。

以上についての詳細は、受入可能性調査とあわせて、事前に打合せ(FAX等を含む)をさせていただきます。

■作業服、安全装備、器材、設備の使用など

- ・作業服・安全装備等：作業服、安全靴、ヘルメット・作業帽、安全帯、保護めがね等は実習用として用意しておりますが、受入企業等で指定のものがあればインターンシップの期間中の借用をお願いいたします。（基礎的な安全教育を学内で実施しておりますが、各職場での受入教育も実施していただけますよう、お願いいたします。）
- ・コンピュータの使用等：学生が大学あてに報告をメール等で送信することになりますので、便宜をはかっていただけますよう、お願いいたします。

■報酬および生活費など

- ・報酬：不要です。
- ・受入場所までの往復旅費・交通費：原則として不要です。ただし職務上必要となる交通費等は支給をお願いします。
- ・宿泊施設等：社員寮等を無償または安価で提供していただける場合は、受入可能性調査の段階で提示していただき、最終的に所在地と宿泊施設の有無、学生の通勤可能距離等を総合的に判断して、履修する学生を選考させていただきます。
- ・食事等：昼食は学生の自弁と考えています。ただし社員食堂の便がある場合には、社員同等として使わせていただければ幸いです。

■保険など

- ・保険について：大学で学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯学生生活総合保険に加入させてからインターンシップを履修させます（車両による事故は適用外となります）。

お問合せ先

ものづくり大学 学生課就職・インターンシップ係
〒361-0038 埼玉県行田市市前谷333
TEL.048-564-3818／FAX.048-564-3201
E-mail／internship@iot.ac.jp

ものづくり大学 インターンシップ 受入のお願い

インターンシップ実施の趣旨

ものづくり大学は、産業界のニーズに応え、実践的なものづくりができる技術者を養成するために2001年に開学しました。理論と実技を融合させた教育方針の下、1年次からものづくりに直結するフレッシュマンゼミや各種基本実技教育を行い、4年次の卒業研究に至るまで、一連のものづくりのためのカリキュラムが組まれています。本学における長期インターンシップは、これら一貫したカリキュラム体系の一部を構成するもので、大学で得た知識と実技を現場である企業で確かめ、更に磨きをかけ、自主性と創造性を持たせて、卒業してからさらに社会で活躍できる人材の育成を目指しています。

インターンシップは、キャリアアップ教育の重要な要素と位置付けられており、最近の就職活動における人材発掘の場と

しても短期インターンシップを取り入れる企業が増えています。学生のうちから企業の生産活動の厳しさに触れさせることで、学生生活がより規律あるものになり、学習意欲も高まり、さらに自発性・協調性・マナーなどの社会人としての素養を身に付けることに役立っています。また、本学としては、インターンシップを通して、企業からの評価や学生からの要望をカリキュラムにフィードバックして、常に実社会の声を反映した教育プログラムの更新も行っています。

インターンシップは、産業界の協力なくしては成り立ちません。学生が将来企業で活躍するための社会人力を身に付けられるよう、産学連携で学生の教育をより充実させることにご協力・ご尽力を頂きたいと思います。

時期	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
大学	受入依頼	募集・ガイダンス・選考				インターンシップ			レポート提出	
※上記の表は基本的な年間表です。										

情報メカトロニクス学科

情報、電気・電子、機械分野について総合的に学びます

基礎インターンシップ

概要 ものづくりに関連する業務の様々な様態に触れ、工夫する力・創造力を養うとともに、仕事をする意味を理解し、自らの適性を見つめ将来像を構築する。

時期 第2クォータ（6月中旬～ 8月初旬）のうち実働40日間

対象 情報メカトロニクス学科 2年生

研修例

●ソフトウェア開発会社

様々なプログラミングソフトを用い、課題に沿ってプログラムの作成・修正を繰り返すことで基礎知識を習得し、実践力を養う。

●金属部品メーカー

製品の設計から加工・完成までの製造工程全体の流れを体験することで、製造業に対する理解をより深める。

●精密板金加工メーカー

板金加工全般及び梱包・出荷までの流れを体験するとともに、最終課題として自身で設計した図面をもとにオリジナル製品を製作する。



精密板金加工メーカー

専門インターンシップ（1、2）

概要 専門とする技能・技術や製品について、企業等の生産などの諸現場で実務を経験し、自らの能力レベルを把握し、就職を念頭に置いてその向上に努める。

時期 原則第2クォータ(6月中旬～ 8月初旬)のうち実働20日間又は実働40日間(場合によって第1、第3クォータでの履修も可)

対象 総合機械学科 4年生

実施例

●自動車部品メーカー

各種の生産部門を経験し、自動車の生産ラインにおけるトヨタ生産方式の効果を高めるための生産状況調査等の業務に従事する。

●総合電機メーカー

製品の機構の摩擦、磨耗の測定を行い、基礎データを収集、蓄積し、そのデータ解析などを行うことにより、製品の摩滅低減策を講じるための資料を作成する。

●航空宇宙関連研究所

翼周囲の気流が揚力等に及ぼす影響などを解析するため、翼周囲気流性状に関する実験を行い、その一部を卒業研究としてまとめる。



自動車部品メーカー

建設学科

建築、土木、環境分野について総合的に学びます

基礎インターンシップ

概要 建設業及び建設関連業の様々な様子を知り、建設現場の実務の流れ、段取、工程計画・管理、安全などの基礎事項を体験し、今後、自分が果たしうる役割を考える。

時期 第2クォータ（6月中旬～ 8月初旬）のうち実働40日間 **対象** 建設学科 2年生

建築士基礎インターンシップ※1

建築士事務所登録がされている事業所で行われ、設計・監理、施工管理を含む総合的な研修ができる環境がある事業所で行われるインターンシップ。



ゼネコン

研修例

●設計事務所

設計事務所の業務の中で、主として模型制作やCADによる図面作成を手伝いながら、企画から基本設計、実施設計、施工監理と業務が進展していくことなどを学ぶ。

●ゼネコン

増築工事の現場において、基礎工事から鉄骨建方工事の期間、監督の助手として現場における各種記録の作成に従事し、大規模な建築工事が進展していく様子を体験する。

測量基礎インターンシップ

測量業者の登録がされている事業所で行われ、測量及び関連する業務の研修ができる環境がある事業所で行われるインターンシップ。



測量実習

研修例

●測量業務の中で、紙の公図や求積図をCADでデータ化し更新しやすくするとともに、現場で観測点の設置を行い、平面図作成のための平面測量、道路を作る際の縦横断測量、川の水量を調べる流量観測を体験する。

●測量の現場作業を一通り学ぶために、測量機の据付方法、GPS測量の観測、地形測量の数値・データ集め、測量の計算、DGPS測量の方法を学ぶ。

一般基礎インターンシップ※1

建築士基礎インターンシップ以外の事業所で行われるインターンシップ。



左官工事

研修例

●左官専門工事

左官工事の各種の工場現場を移動しながら、左官工事の材料や道具の準備を手伝い、また見習いとして簡易な作業を手伝うとともに、左官工事の基本についての指導を受ける。

●高速道路管理法人

道路工事の諸現場の見学とあわせ、道路の建設や管理、バリアフリー化等の改修などが進められる経緯を学習し、関連する膨大な記録資料の分類・整理などの業務を体験する。

専門インターンシップ※2

概要 専門とする技能・技術の分野について、生産計画、現場制作及び施工、現場管理、企画設計などの業務を体験し、就職に向けて、その能力の向上に努める。



住宅建築工務店

時期 第1クォータ(4月初旬)から第3クォータ末(11月末頃)の間で実働40日間又は実働80日間

対象 建設学科 4年生

実施例

●ゼネコン

就職が内定した企業の現場において、施工管理、安全管理の業務に従事し、将来の業務の基本的なことがら、進め方、記録作成等についての事前研修を体験する。

●住宅建築工務店

木造在来工法の工務店で、本学出身の先輩社員にも指導を受けながら、耐震金物なども使った安心感のある住宅造りに参加する。

●試験研究機関

木造に関する専門の試験研究機関において、実験の準備からデータの収集整理等の業務に携わり、試験研究機関の業務全体の流れを体験する。

※1

本学の建築士基礎インターンシップ(8単位)と建築士専門インターンシップ(8単位)は、「建築士資格試験指定科目」に認定されました。

指定科目を履修条件に従って60単位以上取得して卒業すれば、実務経験2年で一級建築士の受験資格が得られます。また40単位以上を取得して卒業すれば、二級建築士、木造建築士の受験資格が得られます。(単位数が少ない場合には、実務経験が加算されます。)

また、指定科目の中では選択科目の扱いとなっていますので、例えば建築士基礎インターンシップではなく、一般の基礎インターンシップを取得した場合でも、他の科目で受験資格要件を満たしていれば、受験することが可能です。

※2

基礎インターンシップ同様に専門インターンシップも「建築士専門インターンシップ」と「測量専門インターンシップ」「一般専門インターンシップ」になります。